

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4346085号
(P4346085)

(45) 発行日 平成21年10月14日(2009.10.14)

(24) 登録日 平成21年7月24日(2009.7.24)

(51) Int.Cl. F 1
A 4 4 C 1/00 (2006.01) A 4 4 C 1/00

請求項の数 3 (全 16 頁)

(21) 出願番号	特願2004-214579 (P2004-214579)	(73) 特許権者	505027786
(22) 出願日	平成16年7月22日(2004.7.22)		有限会社ジェムネットワーク
(65) 公開番号	特開2006-34345 (P2006-34345A)		東京都台東区上野5-21-3 サスガ第
(43) 公開日	平成18年2月9日(2006.2.9)		2ビル302号
審査請求日	平成18年3月29日(2006.3.29)	(74) 代理人	100106194
			弁理士 吉澤 弘朗
		(72) 発明者	目黒 武文
			東京都台東区台東4-11-2 紫光ビル3
			階
		審査官	門前 浩一

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 装身具用ペンダント

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

装飾片が取り付けられる装飾片取付け部と、チェーンが取り付けられるチェーン取付け孔とを備えた台座を有する装身具用ペンダントにおいて、上下方向に回転する回転部材を前記台座に取り付けると共に、前記チェーン取付け孔の前部に前記装飾片取付け部を形成し、これに前記装飾片を揺動可能に吊り下げた状態で、前記チェーン取付け孔を吊下げ点としてその前部と後部の重量が等しくなるよう前記台座内部にバランスとなる空隙を形成したことを特徴とする装身具用ペンダント。

【請求項2】

装飾片が取り付けられる装飾片取付け部と、チェーンが取り付けられるチェーン取付け孔とを備えた台座を有する装身具用ペンダントにおいて、上下方向に回転する回転部材を前記台座に取り付けると共に、前記チェーン取付け孔の前部に前記装飾片取付け部を形成し、これに前記装飾片を揺動可能に吊り下げた状態で、前記チェーン取付け孔を吊下げ点としてその前部と後部の重量が等しくなるよう該チェーン取り付け部が前記台座の中心から偏心した位置に形成されていることを特徴とする装身具用ペンダント。

【請求項3】

請求項1乃至2に記載の装身具用ペンダントにおいて、前記回転部材は、少なくとも前記台座の上端部と下端部のいずれか一方あるいは双方の両側あるいは中央に取り付けられたドーナツ形の車輪であることを特徴とする装身具用ペンダント。

10

20

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【０００１】**

本発明は、宝石等を取り付けた装飾片を吊下げて形成する装身具用ペンダントに関する。

【背景技術】**【０００２】**

従来より装身具用ペンダントには、多種多様のものがあり、その形も様々であるが、通常、首に介装するためのネックレス用チェーンと、ダイヤモンド等の宝石を取り付けた装飾片からなり、輪環を介して装飾片をチェーンに吊下げるか、あるいはチェーンの両端を装飾片に直接固定するタイプが存在する。

10

【０００３】

例えば、図２１は、装飾片１１２をネックレス用チェーン７０に吊下げた装飾用ペンダント１１０の使用例を横から見た状態を示したものである。図２１に示すように装飾片１１２は、装飾片が概ね垂直の状態に吊下げられたときにこれに取り付けられたダイヤモンド等の宝石が正面に向いている限りにおいては、美しく輝いて見えるものである。

【０００４】

一方、新しいタイプの装身具として、本願出願人は特願２００１－０８６４７１に記載した装身具用ペンダントを出願している。図２５および図２６は特願２００１－０８６４７１に記載した装身具用ペンダント１２０である。このようなペンダント１２０は、上方にペンダントチェーンが取り付けられるチェーン連結部１２３を備えた台座１２５の背面にテーパ状の定着部１２４を形成し、前面には先端に吊下孔１２８と後方に湾曲部１３０を設けた吊下部１３２が形成されている。吊下孔１２８は、係止環１４２により宝石１４４を取り付けた装飾片１４６を揺動可能に吊り下げるための孔である。

20

【０００５】

このような構造により、微振動でも装飾片１４６が前後左右に揺れることができるとともに、前だけではなく後方からも宝石１４４に光が入射されるので、宝石１４４が理想的な光の反射を行うことができ、宝石１４４を美しく輝かせてみせることができる。

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【０００６】**

しかしながら、従来の装身具用ペンダントでは使用しているときにその装飾片１１２が反り上がったたりそり下がったりしてしまうことがあり、ペンダントそのものの美しさが損なわれるだけでなく使用感も悪くなるという問題があった。

30

【０００７】

図２４は従来のペンダントの使用におけるこのような状態を示した概略図である。図２４(A)はネックレス用チェーン７０に吊下げられたペンダント１１２の好ましい装着状態を示したものであり、装飾片の台座の背面全体が、例えば、使用者の胸元に面接触している。ところが、夏等の暑い日に汗をかくとペンダント１１２が首の特定の位置で肌に引っ付いてしまいスムーズに上方に移動しなくなることがある。このような状態で体を動かしネックレス用チェーン７０が更に上方向に引っ張られたときに、図２４(B)に示すように上端の角１１３が係止され、ペンダント１１２が反り上がってしまうことがあった。

40

【０００８】

反対に、ペンダント１１２が首の特定の位置で肌に引っ付いてしまいスムーズに下方に移動しなくなり、図２４(C)に示すように下端の角１１４が引っかかった状態でさらにネックレス用チェーン７０が垂れると、ペンダント１１２が反り下がってしまうことがあった。

【０００９】

本発明はこのような従来技術の課題を解決し、ペンダントの装着状態において、ペンダントがスムーズに上方あるいは下方に移動することで、ペンダントが反り上がったたり反り下がったりせず、きわめて見栄えの良い装身具用ペンダントを提供することを目的とする。

50

【課題を解決するための手段】**【0010】**

本発明において上記課題を解決するための手段として、請求項1に記載された発明は、装飾片が取り付けられる装飾片取付け部と、チェーンが取り付けられるチェーン取付け孔とを備えた台座を有する装身具用ペンダントにおいて、上下方向に回転する回転部材を前記台座に取り付けると共に、前記チェーン取付け孔の前部に前記装飾片取付け部を形成し、これに前記装飾片を揺動可能に吊り下げた状態で、前記チェーン取付け孔を吊下げ点としてその前部と後部の重量が等しくなるよう前記台座内部にバランサとなる空隙を形成した装身具用ペンダントであることを特徴とする。また、請求項2に記載された発明は、装飾片が取り付けられる装飾片取付け部と、チェーンが取り付けられるチェーン取付け孔とを備えた台座を有する装身具用ペンダントにおいて、上下方向に回転する回転部材を前記台座に取り付けると共に、前記チェーン取付け孔の前部に前記装飾片取付け部を形成し、これに前記装飾片を揺動可能に吊り下げた状態で、前記チェーン取付け孔を吊下げ点としてその前部と後部の重量が等しくなるよう該チェーン取り付け部が前記台座の中心から偏心した位置に形成されている装身具用ペンダントであることを特徴とする。

10

【0011】

さらに、請求項3に記載された発明は、請求項1乃至2に記載の装身具用ペンダントにおいて、前記回転部材は、少なくとも前記台座の上端部と下端部のいずれか一方あるいは双方の両側あるいは中央に取り付けられたドーナツ形の車輪である装身具用ペンダントであることを特徴とする。

20

【発明の効果】**【0012】**

本発明による装身具用ペンダントによれば、ペンダントが反り上がった、反り下がったりすることが無い。このため、ペンダントそのものの美しさが損なわれることが無いとともに、使用感が悪くなくこともない。

【発明を実施するための最良の形態】**【0013】**

以下、本発明による装身具用ペンダントの実施の形態を図面を用いて説明する。図5から図7には、図24に記載したペンダントの反り上がりまたは反り下がり防止する具体例が示されている。

30

【0014】

図5および図6は、図24(B)に示したペンダントが反り上がるという従来の問題点の解決例を示している。すなわち、図5では、ペンダント32の上端の両側に車輪34を備えることで、ネックレス用チェーン30が上に引っ張られても、車輪34の回転によってペンダント32が反り上がることを防止している。また、図6では、ペンダント36の上端内側に車輪38を備えた場合を示しており、図6(A)には動作例が、図6(B)には側面図が示されている。図6の場合も図5と同様に、ネックレス用チェーン30が上に引っ張られても、車輪38が回転するのでペンダント36が反り上がる事が無い。

【0015】

図7は、図24(C)に示したペンダントが反り下がるという従来の問題点の解決例を示している。すなわち、図7では、ペンダント40の下端内側に車輪42を備えることで、ネックレスチェーン30が垂れ下がった場合には車輪42が回転してペンダント40の反り下がり防止している。このように、ペンダントの上端または下端、あるいは上端から下端全体をカバーする、車輪のような接触面との摩擦係数を少なくする回転部材を取り付けることで、反り上がりや反り下がり防止することができる。

40

【0016】

図1～図4は、本発明による装身具用ペンダントの第1の実施の形態を示すもので、図1(A)は、正面図を、図1(B)は、その側面図を示している。装身具用ペンダント10は、例えば、金、銀、プラチナ等の貴金属や真鍮等の金属を原料として形成された台座12と、例えば、ダイヤモンド、エメラルド、ルビー等の宝石26を取り付けた装飾片20と、

50

この装飾片 20 を胸元に吊るすために、前記同様の貴金属などを原材料として形成したネックレス用チェーン 70 (図 8 参照) とから構成されている。

【0017】

装身具用ペンダントの台座 12 は、その形状には特に限定はないが、例えば、図 1 (A) に示すように正面から見て略縦長の長方形であり、その上部の角が丸く形成されている。また、例えば、図 1 (B) に示すように、台座 12 は側面から見て略円形であり、その上部にはネックレス用チェーン 70 を挿通するチェーン連結部 18 が幅方向に貫通、開口されている。このチェーン連結部 18 の開口を大きくすることにより、より太径のネックレス用チェーンや、複数本の細径のネックレス用チェーンを編んだもの、真珠ネックレス等を挿通することもできる。

10

【0018】

また、台座 12 の前部には装飾片 20 を取り付ける吊下部 15 が形成されている。吊下部 15 は、正面から見ると略逆三角形の形状であり (図 1 (A))、その先端部 15a が最高位の高さになるように隆起状に形成されている。先端部 15a には、装飾片 20 を取り付ける吊下孔 13 が形成されている。ただし、吊下部 15 の形状には、前記のような限定が特にあるわけではなく、装飾片 20 を吊り下げることができれば良いものである。

【0019】

装飾片 20 は、宝石 26 とこれを巻装する係止環 24 および輪環 22 により構成されている。宝石 26 は係止環 24 に形成された複数本の爪部 25 で挟持され固定されている。係止環 24 の上部には輪環 22 が取り付けられ、これが台座 12 の吊下孔 13 に挿通されている。装飾片 20 は、これを身に装着したときでも、図 4 に示すように、その後ろに十分な隙間ができるので、左右だけでなく前後にも自由に揺動可能である。したがって、前後左右に宝石 26 が微細に揺動することにより、静止状態では得られない反射光を宝石 26 が放つことが可能となり、宝石 26 を美しく輝かせることができる。

20

【0020】

台座 12 には、その内部にドーナツ形の車輪 16 が取り付けられている。車輪 16 は、例えば、台座 12 と同等の金属材料で形成されており、時計方向または反時計方向に回転するので、その接触面である人肌との摩擦係数を小さくすることができる。すなわち、装飾用ペンダント 10 が身に装着された状態では、車輪 16 が直接肌に接触し、装飾用ペンダント 10 の反り上がりや反り下がりが生じそうになると回転してこれを防止する。

30

【0021】

図 2 は、図 1 (A) の一点鎖線 G - G で切断したときの台座 12 の断面図である。図 2 に示すように、断面が円形 of 車輪 16 で囲まれた基部 14 は、その表面 19 が車輪 16 の回転輪用軸表面となっている。表面 19 には、車輪 16 がスムーズな回転運動が行えるように、必要に応じ、例えば、複数の小さなベアリング等が取り付けられる。

【0022】

基部 14 には、また、空洞の抜き部 17 が形成されている。抜き部 17 は、チェーン連結部 18 の中心を通る点線 X - Y を境とし、装飾用ペンダント 10 の前部と後部の重さが等しくなるようにするバランスである。これにより、ネックレス用チェーンがチェーン連結部 18 に挿通され、装身具用ペンダント 10 が吊下げられると、点線 X - Y を境にその前後の重さが等しいので、装飾片 20 は、図 2 に示すような正面位置で安定して吊り下げることができる。ただし、装身具用ペンダント 10 の前後の重さが他の方法により調整できるならば、抜き部 17 は必要とされないことはいうまでもない。

40

【0023】

図 3 は、図 1 (B) の一点鎖線 H - H で切断したときの台座 12 の断面図である。図 3 に示すように、車輪 16 はその断面が蒲鉾状の形状になっており、装身具用ペンダント 10 を着けたときの接触面が丸みを帯び、軸表面 19 側が平らになっている。もちろん、車輪 16 を他の形状、例えば、断面平打ち状にすることができるのはいうまでもない。なお、車輪 16 を台座 12 の内部に把持する手段は色々あるが、例えば、台座 12 が図 3 の点線 J - J 間で嵌め込むような構造になっており、車輪 16 を基部 14 の軸表面 19 に嵌入した

50

後、これら部材が分離しないように嵌め込めば良い。

【0024】

図8は、本発明による装身具用ペンダントの第2の実施の形態を示した正面図(A)と側面図(B)である。台座62は、第1の実施の形態である台座12と同様の材質により形成され、例えば、正面から見ると長方形で側面から見ると円形の円板形状とされている。台座62は、その上端にネックレス用チェーン70を挿通するチェーン連結部63が形成されている。台座62には、また、時計の針で概ね8時の位置に、装飾片20の輪環22が取り付けられる吊下輪66が形成されている。側面図(B)に示すように装身具用ペンダント60の場合も、装飾片20の後ろに十分な空間があるので、装飾片20は前後左右に揺動することが可能となり、宝石26がより反射光を放って美しく輝くことができる。

10

【0025】

台座62の外側には、時計方向、反時計方向に回動自在の車輪68が取り付けられている。この車輪68は、第1の実施の形態で説明した車輪16と同様の機能の車輪であり、これによりペンダントが反り上がったたり、反り下がったりすることは無くなる。

【0026】

図9は、装身具用ペンダント60の分解図を示したものであり、(A)は台座62の正面図、(B)は台座62の側面図、(C)は車輪68の正面図である。台座62の中心には車輪68の軸64を回動自在に挿通する車軸取付孔65が形成されている。車輪68は片側が軸64から外れる構造になっており、片側が外れた状態で軸64を車軸取付孔65に取り付けた後、車輪68の片側を軸64に嵌合する。

20

【0027】

図10は、装身具用ペンダント60の使用例を示したものであり、(A),(B),(C)にしたがって車輪68が接触する斜面が急になっている。図10で明らかなように斜面の傾斜に関係なく装飾片20は垂直に垂れ下がるが、最も使用状態に近い(C)では装飾片20の後ろに十分な隙間ができるので、装飾片20が前後左右に揺動可能とり、宝石26を美しく輝かせることができる。

【0028】

図11は、本発明による装身具用ペンダントの第3の実施の形態を示した正面図(A)と側面図(B)である。第3の実施の形態では、装飾片80に車輪を付けるのではなく、側面図(B)に示すように台座81が常に同じ状態でバランスを保つことを特徴としている。

30

【0029】

装身具用ペンダント80の台座81は、正面から見て略長方形、側面から見て円形の円板形状の形状であり、第1の実施の形態である台座12と同様の材質により形成されている。台座81の中心には、チェーン用ネックレス70を挿通するためチェーン連結部82が幅方向に穿設され、時計の針で概ね8時の位置に装飾片20の輪環22が取り付けられる吊下輪84が形成されている。

【0030】

図12は、台座80の正面図(A)と、これに図示した一点鎖線K-Kで切断したときの断面図(B)である。また、図13は台座80の側面図(A)と、これに図示した一点鎖線L-Lで切断したときの断面図(B)である。図12および図13の断面図(B)に示すように、台座81の内部83には軸部82が取り付けられている。この軸部82は、本体81を時計方向または反時計方向に回動可能にする軸部であり、その中心にはチェーン用ネックレス70(図14参照)を挿通して取り付ける挿通孔82aが穿設されている。本体81はまた、内部83の上部に空洞の抜き部86が形成されている。この抜き部86により吊下輪84が時計の針で9時の位置でバランスが保たれるため、反り上がりや反り下がりが起こりそうになっても、軸部82を軸に本体81が回動してこれらを防止することができる。

40

【0031】

図10と同様に、図14は装身具用ペンダント80の使用例を示したものであり、(A),(B),(C)にしたがって車輪80が接触する斜面が急になっている。図14で明らかなよう

50

に斜面の傾斜に関係なく装飾片 20 は垂直に垂れ下がるが、最も使用状態に近い(C)では装飾片 20 の後ろに十分の隙間ができるので、装飾片 20 が前後左右に揺動可能とり、宝石 26 を美しく輝かせることができる。

【0032】

図 15 および図 16 は、本発明による装身具用ペンダントの第 4 の実施の形態を示したものである。図 15 には装身具用ペンダント 85 の斜視図が、また図 16 にはその正面図が示されている。この実施の形態の装身具用ペンダント 85 は、装飾片 87 と、ドーナツ形の車輪 88a, 88b およびネックレス用チェーン 70 により構成され、それぞれが各パーツとして独立している。

【0033】

装飾片 87 は、例えば、金、銀、プラチナ等の貴金属を原料とした細長い四角柱に形成され、その正面には、例えば、3 個のダイヤモンド等からなる宝石 89 が縦方向に並べて取り付けられている。装飾片 87 はまた、その上部にネックレス用チェーン 70 を挿通する挿通孔 87a が穿設されている。

【0034】

挿通孔 87a の両側にはドーナツ形の車輪 88a, 88b が台座 87 を挟んだ状態で配置され、車輪 88a,

挿通孔 87a, 車輪 88b をネックレス用チェーン 70 が挿通することでこれらが連結されている。ドーナツ形の車輪 88a, 88b は、第 1 の実施の形態で示した台座 12 と同様の材質で形成され、その直径が装飾片 87 の厚みよりも長く、ネックレス用チェーン 70 を軸に回転自在になっている。車輪 88a, 88b の回転により、装飾片 87 の反り上がりを防止することができる。また、この実施の形態の場合には装飾片 87 が板状で細長いので、そのまま垂れ下がることで反り下がりが生じ難い。ただし、装飾片 87 の形状や取り付けられる宝石等には、特に前記限定が存在しないことはもちろんである。

【0035】

図 17 は、本発明による装身具用ペンダントの第 5 の実施の形態を示した斜視図である。第 5 の実施の形態である装身具用ペンダント 91 は、装飾片 20 が取り付けられたリング状の台座 95 と、この台座 95 に回転自在に取り付けられたうす鉢状のコマ 97 と、ネックレス用チェーン 70 により構成されている。

【0036】

装身具用ペンダント 91 は、うす鉢状のコマ 97 が回転することにより、台座 95 の反り上がりや反り下がりや防止している。なお、この実施の形態に示した装身具用ペンダント 91 の台座 95 およびコマ 97 の材質も第 1 の実施の形態で示した台座 12 と同様の材質により形成されている。

【0037】

図 18 は、本発明による装身具用ペンダントの第 6 の実施の形態(A)と、第 7 の実施の形態(B)を示したものである。これら第 6 の実施の形態(A)および第 7 の実施の形態(B)はそれぞれ、台座の上端と下端に車輪を付けることにより、台座の反り上がりや反り下がりや防止している。

【0038】

第 6 の実施の形態(A)に示した装飾片 90 は、台座 92 の上端に車輪 98 が内側に取り付けられており、下端内側に車輪 99 が取り付けられている。車輪 98 は、ドーナツ形の車輪であり、ネックレス用チェーンを挿通するためのチェーン連結部 93 の外周に回転可能なように取り付けられている。

【0039】

第 7 の実施の形態(B)に示した装飾片 100 は、台座 102 の上端内側に車輪 107 が取り付けられており、下端内側に車輪 108 が取り付けられている。装飾片 100 では、ネックレス用チェーンを挿通するためのチェーン連結部 103 は上端の車輪 107 と離れた位置に取り付けられている。

【0040】

図 19 ~ 図 21 は、本発明による装身具用ペンダントの第 7 の実施の形態を示したもので、図 19 はその正面図を、図 20 はその側面図を、図 21 は図 20 の一点鎖線 M - M で切断したときの断面図である。装身具用ペンダント 150 は、第 1 の実施の形態と同様な材質で形成されているカバー状の台座 152 と、装飾片 20 とネックレス用チェーン 70 とから構成されている。

【 0041 】

カバー状の台座 152 には、概観が円板状の本体上端にネックレス用チェーン 70 を挿通するリング状のチェーン連結部 154 と、側面からみて時計の針で概ね 8 時の位置に装飾片 20 を取り付けるための吊下輪 158 とが一体的に形成されている。チェーン連結部 154 にはチェーン 70 が挿通される孔 156 が形成されており、この開口を大きくすること
10

【 0042 】

吊下輪 158 の孔 159 に取り付けられた装飾片 20 は、第 1 の実施の形態の場合と同様に、これを身に装着したときでも、図 20 に示すように、その後ろに十分な隙間ができるので、左右だけでなく前後にも自由に揺動可能である。したがって、前後左右に宝石 26 が微細に揺動することにより、静止状態では得られない反射光を宝石 26 が放つことが可能となり、宝石 26 を美しく輝かせることができる。

【 0043 】

カバー状の台座 152 は中空体であり、図 21 に示すように、その内部に回転軸 153 が形成され、これにドーナツ形の車輪 160 が取り付けられている。車輪 160 は、例えば、台座 152 と同等の金属材料で形成されており、上下方向に回転するので、その接触面である人肌との摩擦係数を小さくすることができる。すなわち、装飾用ペンダント 150 が身に装着された状態では、車輪 160 が直接肌または衣服に接触し、装飾用ペンダント 150 の反り上がりや反り下がりが生じそうになると回転してこれを防止する。なお、車輪 160 がスムーズな回転運動が行うためには、必要に応じ、例えば複数の小さなベアリング等を回転軸 153 に取り付けることができる。
20

【 0044 】

この実施の形態の場合、装身具用ペンダント 150 を身に着けるとチェーン 70 によってぶら下げられ、チェーンを取り付ける孔 159 の位置と車輪 160 の作用と接触面より、
30

装飾片 20 が時計の針の 8 時の定位置になる。したがって、第 1 の実施の形態では必要であったバランスとなる抜き部 17 が不要となり、台座 152 の構造が複雑にならないのでその分生産コストを抑えることができる。

【 0045 】

以上の如く、本発明の実施の形態を図面を用いて説明したが、本発明は特にこれら実施の形態に限定されるものではなく、本発明の精神を逸脱しない種々の変形は本発明の範疇に含まれる。すなわち、本発明は、装身具用ペンダントの反り上がりや反り下がり
40

を防止するため、台座に車輪を付けたり、台座内部にバランスを設けたり、またはバランスを必要としないようその形状に工夫を凝らしたことにある。

【 0046 】

例えば、図 22 は反り上がりや反り下がり
40

を防止する車輪を装飾片に取り付けた代表的な組み合わせの一例をまとめたものである。なお、図 22 では台座が人肌や衣服に接触する車輪が取り付けられた背面から見た図である。

【 0047 】

(A) は装飾片 52 の上端と下端の内側にそれぞれ車輪 52a と 52b を取り付け
50

た場合を示しており、第 4 の実施の形態と第 5 の実施の形態がこれに該当する。(B) は装飾片 54 の上端と下端にそれぞれ 2 個ずつ車輪 54a ~ 54d を、装飾片 54 の側面からこれら車輪が飛び出さないように取り付け
50

た場合を示している。(C) は装飾片 56 の上端と下端にそれぞれ 2 個ずつ車輪 56a ~ 56d を、装飾片 54 の側面の外側に
50

取り付け
50

た場合を示している。(D) は装飾片 58 の上端外側に 2 個の車輪 58a と 58b を、下端内側に車輪 58c を

取り付けた場合を示している。このように、車輪の取り付けに関しては様々なバリエーションがあり、これらに基づいた他の組み合わせを含め本発明の範疇に含まれる。なお、装飾片に取り付ける宝石は、ダイヤモンドやルビーまたはエメラルド等の色石の他に、コイン、真珠、カメオまたは琥珀等であってもよい。

【0048】

図23は台座へ車輪を取り付ける車輪取付構造を示したものである。図23(A)と(B)は図22(A)の場合の車輪取付け例を示したものである。台座52の背面にはその上端部と下端部に車輪52aおよび52bを取り付ける切り欠き部が形成され、これら車輪を取り付けた状態でリベットのような取付け部材53a、53bで横から軸支する。

【0049】

また、図23(C)と(D)は図22の(B)と(D)を組み合わせたときの車輪取付け例を示したものである。台座の上端に取り付けられる車輪58aおよび58bは、取付け部材59aにより軸支され、これの先端に止め具59bを装着することにより、これら車輪を回転自在に台座58にとりつける。車輪58cは図23(A)と(B)と同様に取付け部材59cにより取り付けられる。

【図面の簡単な説明】

【0050】

【図1】本発明による装身具用ペンダントの第1の実施の形態を示す正面図(A)と側面図(B)である。

【図2】図1の正面図(A)の一点鎖線G-Gで切断したときの部分断面図である。

【図3】図1の側面図(B)の一点鎖線H-Hで切断したときの断面図である。

【図4】図1に示した装身具用ペンダントの装飾片の動作を示す側面図である。

【図5】ペンダントの上端外側に車輪を付けたときの側面図である。

【図6】ペンダントの上端内部に車輪を付けたときの側面図である。

【図7】ペンダントの下端内部に車輪を付けたときの側面図である。

【図8】本発明による装身具用ペンダントの第2の実施の形態を示す正面図(A)と側面図(B)である。

【図9】図8に示した装身具用ペンダントの分解図である。

【図10】図8に示した装身具用ペンダントにおいて、傾斜を変えたときの使用例を示した側面図である。

【図11】本発明による装身具用ペンダントの第3の実施の形態を示す正面図(A)と側面図(B)である。

【図12】図11に示したペンダントにおける台座の正面図と一点鎖線K-Kで切断したときの断面図である。

【図13】図11に示したペンダントにおける台座の側面図と一点鎖線L-Lで切断したときの断面図である。

【図14】図11に示した装身具用ペンダントにおいて、傾斜を変えたときの使用例を示した側面図である。

【図15】本発明による装身具用ペンダントの第4の実施の形態を示す正面図である。

【図16】図16に示した第4の実施の形態の分解図である。

【図17】本発明による装身具用ペンダントの第5の実施の形態を示す斜視図である。

【図18】本発明による装身具用ペンダントの第6の実施の形態(A)と、第7の実施の形態(B)の側面図である。

【図19】本発明による装身具用ペンダントの第7の実施の形態を示した正面図である。

【図20】図19に示した装身具用ペンダントの側面図である。

【図21】図20の一点鎖線M-Mで切断したときの断面図である。

【図22】本発明による装身具用ペンダントの台座に取り付ける車輪のバリエーションを示した説明図である。

【図23】図19に示した車輪の取付け例を示した図である。

【図24】従来技術における装身具用ペンダントの使用例を示した図である。

【図 2 5】従来技術における装身具用ペンダントの正面図である。

【図 2 6】従来技術における装身具用ペンダントの側面図である。

【図 2 7】従来技術における装身具用ペンダントの反り上がりおよび反り下がりの例を示した図である。

【符号の説明】

【 0 0 5 1 】

1 0 , 6 0 , 8 0 , 8 5 , 9 0 , 9 1 , 1 0 0 , 1 5 0 装身具用ペンダント

1 2 , 6 2 , 8 1 , 8 7 , 9 2 , 9 5 , 1 0 2 , 1 5 2 台座

1 3 , 1 5 9 吊下孔

1 4 基部

1 5 吊下部

1 5 A 先端部

1 6 , 6 8 , 9 8 , 9 9 , 1 0 7 , 1 0 8 , 1 6 0 車輪

1 7 抜き部

1 8 , 6 3 , 1 5 4 チェーン連結部

1 9 軸表面

2 0 装飾片

2 2 輪環

2 4 係止環

2 5 爪部

2 6 宝石

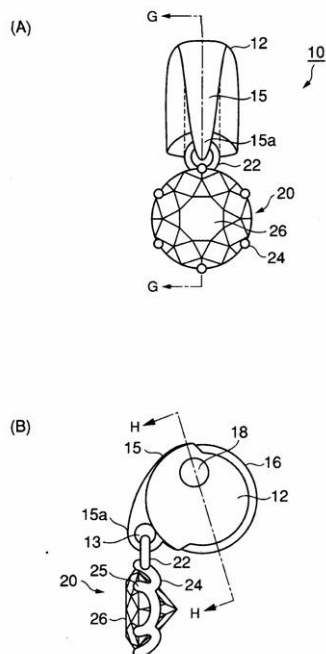
6 6 , 8 4 吊下輪

7 0 ネックレス用チェーン

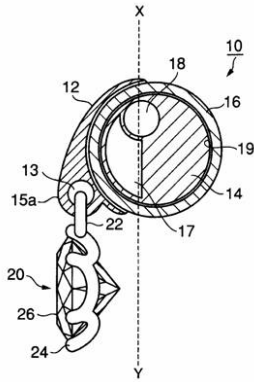
10

20

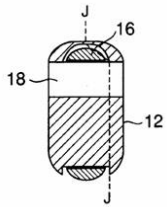
【図 1】



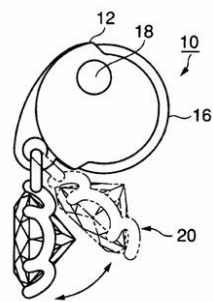
【図 2】



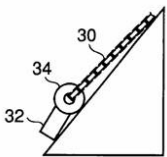
【図 3】



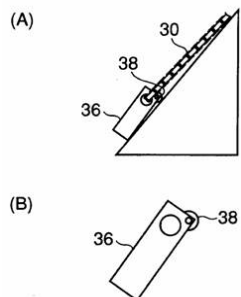
【図 4】



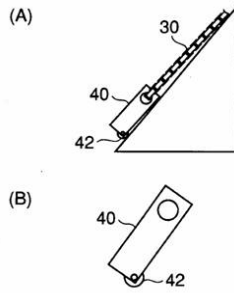
【図 5】



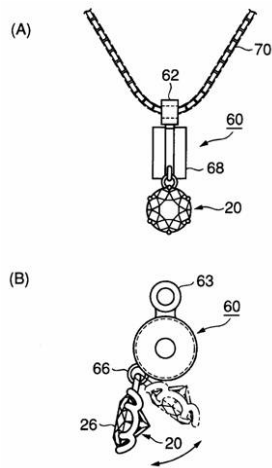
【図 6】



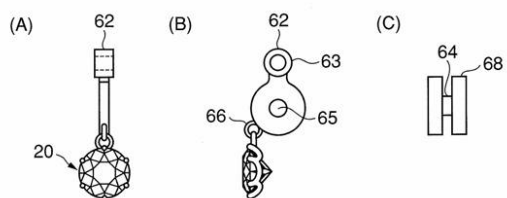
【 図 7 】



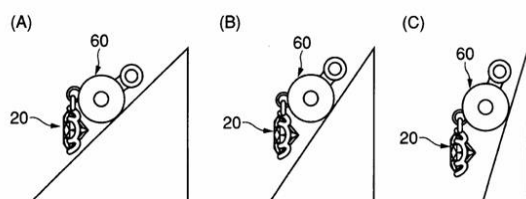
【 図 8 】



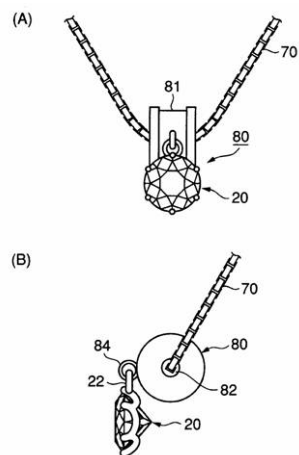
【 図 9 】



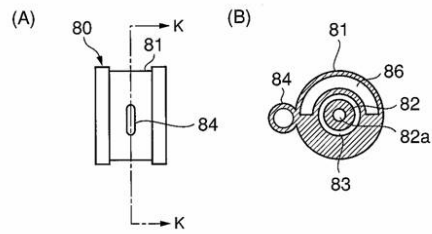
【 図 10 】



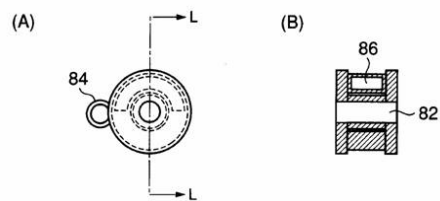
【 図 11 】



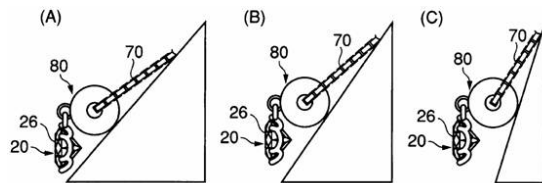
【図 1 2】



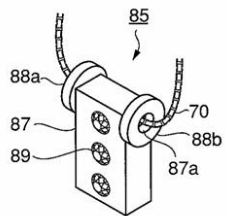
【図 1 3】



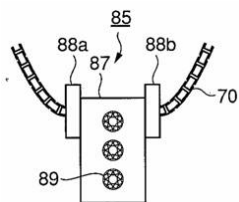
【図 1 4】



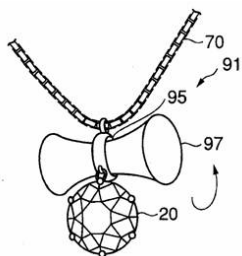
【図 1 5】



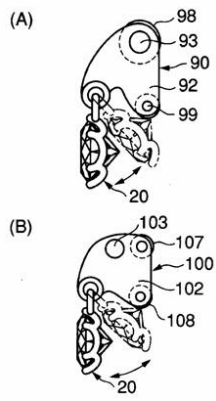
【図 1 6】



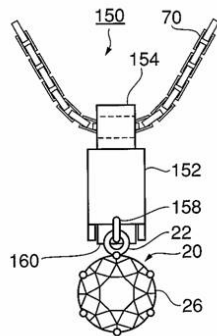
【図 1 7】



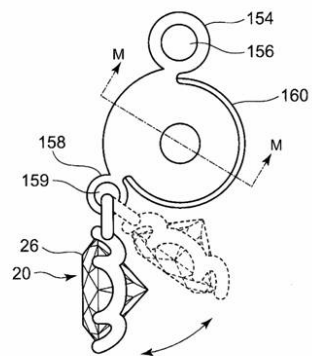
【図 18】



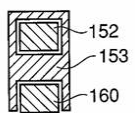
【図 19】



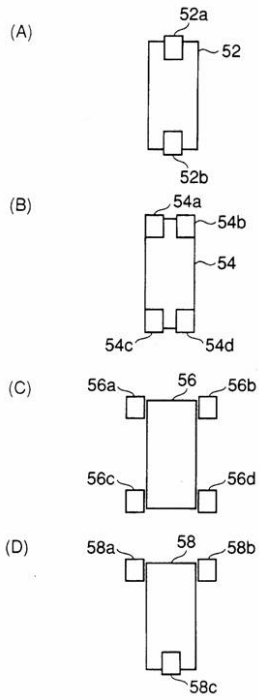
【図 20】



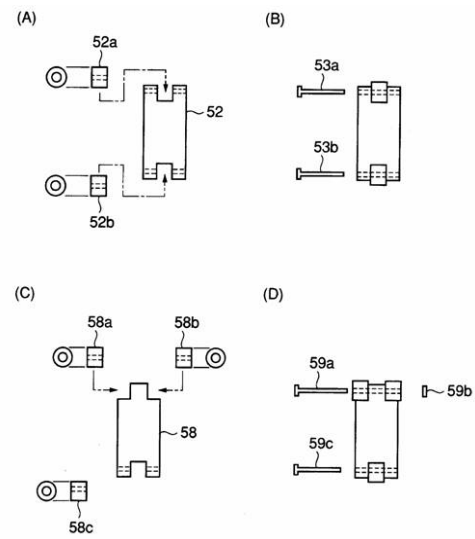
【図 21】



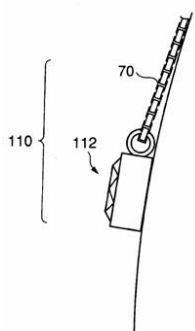
【図 2 2】



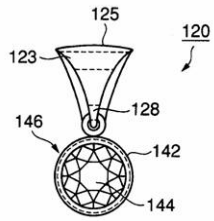
【図 2 3】



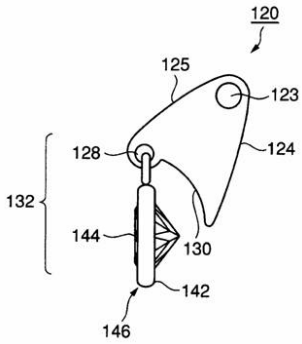
【図 2 4】



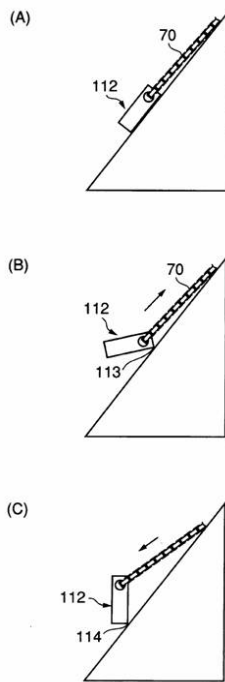
【 図 2 5 】



【 図 2 6 】



【 図 2 7 】



フロントページの続き

(56)参考文献 登録実用新案第3060239(JP,U)
米国特許第05787731(US,A)

(58)調査した分野(Int.Cl.,DB名)
A44C 1/00